

京都市立芸術大学主催
拡張された場におけるアートマネジメント人材育成事業

状況のアーキテクチャー展

SITUATION DESIGN 2016-2019

京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

2019.1.12(土) - 2.11(月・祝)

月曜休館 *1月14日(月・祝)、2月11日(月・祝)は開館、1月15日(火)は休館

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

大学から
文化力
POWER OF
CULTURE

文化庁

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

京都市立芸術大学は、1880年の開学より日本の芸術文化の火床として世界への発信基地であり続けてきました。そしていま、2023年に予定された郊外から都市部への移転を控え、改めて「芸術であること」「大学であること」「地域にあること」の意味を問い直しています。それはアートから大学や地域を捉える作業であると同時に、大学や地域の視点から、独りよがりなアートを捉え返す作業でもあります。

このような問題意識から、モノゴトを多方向から捉え、その視差から世界を多元化する状況の発振に携わるアートマネジメント人材の育成を目指すプログラム「状況のアーキテクチャー」では、2016年から3年間、《物質：大学所有アーカイブの創造的な活用法を探る》《生命：ケア×アートで新たな生存の技法を探る》《社会：地域コミュニティのコアを担い得る芸術大学の活用方法を探る》という3つのテーマを掲げて活動を行ってきました。それは、芸術・大学・地域をつなぐ役割としてのアートの可能性を検討する多様性に満ちたプロジェクトを通して、身体や集団を通じて多様な知と技術を結びつけること、社会の生な現場に巻き込まれながら渦を作ることの二つを交差させ、クリティカルかつ創造的なビジョンを発振させる実験場を作り上げる試みでもあります。

この3年間の活動を集約した本展では、大学の移転に向けた「仮設避難所」を@KCUAに出現させます。視覚情報だけでなく、聴覚やあらゆる身体感覚に作用する空間は、《物質》《生命》《社会》を巡るさまざまなファクターを星座のように結びつけ、多角的な思考を促す「多感覚的な鑑賞と参加の場」となることでしょう。

イベント

2019年1月26日(土) 13:30-

トークイベント

京芸移転のA to Z! 状況のアーキテクチャー番外編

2023年の京都芸大の移転に向けた設計が進んでいるなか、大学はどこへ向かおうとしているのか? そのビジョンとはなにか? @KCUAにあらわれた「仮設避難所」を会場として、所属を離れたフリーな存在として、建築家や教員、学外からのゲストを交え、トピックを掘り下げていきます。

ナビゲーター | 高橋 悟(「状況のアーキテクチャー」事業統括/京都市立芸術大学美術学部教授)
 ゲスト | 大西麻貴(建築家/大西麻貴+百田有希/o+h)
 金氏徹平(美術家/京都市立芸術大学美術学部専任講師)
 小島徳朗(美術家/京都市立芸術大学美術学部准教授)
 榎原充大(建築家/リサーチャー/RAD)
 杉山雅之(美術家)

2019年2月11日(月・祝) 14:00-15:30

トークイベント

状況のアーキテクチャー 大茶話会

プロジェクトに携わってきたコーディネーターや受講生を交えて、3年間にわたる「状況のアーキテクチャー」についてふりかえります。個々人の活動に及ぼす影響や、それぞれにととのてきたべき「状況のアーキテクチャー」のあり方について、本展に触れながら語り合います。

ナビゲーター | 佐藤知久(文化人類学者/京都市立芸術大学芸術資源研究センター専任研究員/准教授)
 ゲスト | 大井卓也(一般財団法人たんぼの家スタッフ/声楽家)



お問合わせ | 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

TEL. 075-253-1509 <http://gallery.kcua.ac.jp>

〒604-0052 京都市中京区押小路町238-1

地下鉄:「二条城前」駅(2番出口)南東へ徒歩約3分 バス:「堀川御池」バス停下車すぐ

企画: 拡張された場におけるアートマネジメント人材育成事業「状況のアーキテクチャー」
 主催: 京都市立芸術大学
 助成: 平成30年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」

詳しくは「状況のアーキテクチャー」または@KCUAの公式ウェブサイトをご参照ください

www.kcua.ac.jp/art-m

